

「小石原川ダム建設事業の検証に係る検討 報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時：平成 24 年 9 月 22 日（土）14:00～15:15

場 所：福岡県朝倉市 甘木・朝倉市町村会館（希声館）

発表者：意見発表者

#### ○住民（1 番）

私、うきは市民の会という市民団体がございますけれども、そこで活動しています●●といたします。計画、利水、治水、環境、財政、それと検討会について、簡単に端折って問題点を提起したいと思います。

まず第一点。計画の段階で私は大変な問題を含んでいるのではないかと考えています。とにかく筑後川から取水をするという、しかも高低差が 200 数十メートルありますよね、そして距離も十数キロあります。こんな無茶苦茶な計画があるのかなと考えています。極めて非常識であるというふうに思っております。

それから小石原川の氾濫の危険性ですね、これほとんどないと言っていいんじゃないか。この間、7 月 3 日、7 月 14 日、相当降りましたね。あの段階でも避難勧告が出ているというだけであって、大したあれは出ておりません。なお、筑後川の水位が上昇した場合、逆流という問題点が若干ありますし、逆にダムがあるがために放流の調整等のミスがあれば大変な氾濫が起こるといふ、そういう危険性もあります。

それから三点目ですけれども、今現在、県南地区は、筑後地区ですね、34%水が余っております。数字で言いますと、読んでみますと約 10 万トンでございます。これに 61,000 トン、大山ダムの水を使いますから大変な水余りで、小石原川ダムができますと、22 万トンの水が余るといふことで、67 万人分の水が余るといふ大変な事態となります。ちなみに、この筑後地区の広域水道整備計画がございますけれども、それでは実は使用者ですね、水道利用者が 841,000 人、それから需要水量が 367,000 トンとなっております、日量ですけど。これは一人あたまた大体 436 リットルで計算してます、一日の一人使用量で。実は昨年度、平成 23 年度の県南地区の一人使う量は一日 277 リットルなんです。これ全部私調べました、全市に。加入率も実は、この 831,000 人と整備計画でなっておりますけれども、だいたいこの数は平成 32 年度に予想していますけれども、ほぼ全人口に匹敵します。要するに給水人口 100%で見えます。しかも 436 リットルで設定している。こんな大変な水の量を使って計算すればなんぼでも足らなくなりますよね、水が。

それから四点目、環境に若干関係あると思いますけれども、スイゼンジノリがどうなるかという問題です。とにかく今はこの地球環境のメカニズムが誰にも分かってませんよね。なんか分かったかのようないろんな資料がありますけれども、ほとんど分かってないんじゃないですか。とにかくいろいろいじくったら大変なことになるということだけは我々素人もみんな分かっていると思います。

それから、うきは市では誰も、全く行政のほうは聞いてないんですけど、うきは市民の声はほとんど合所ダム、私のところにありますから、その水を使えばいいと、小石原川ダムの水なんていらな思っているんです。本当に地域の方にこの実情を話せば、そんなダムはいらないと、おそらくこの地域の住民も言うんじゃないかと思えます。

それから、財政危機でございますね、今、1,000兆円を越す借金です。こんな状況の中で自分の村だけ、自分のところだけ考えとったらだめですよ。やっぱり日本全体としてどうあるかという視点からいくなれば、私はこれ大変な無駄使いであるというふうに思っております。とにかく、費用対効果と、こう言っておりますけれども、私、非常にきつい言い方をすると費用対効果うんぬん以前の問題がいっぱいあるということではないかと思っております。

それから最後に検討会です。この検討会は、全く賛成派ばかりでしょ。県南水道企業団参画の自治体の首長さんばかりでしょ。そんな方たちで検討して、いったい何を検討されたのかなと思います。全部イエスマンですよ。本当は、やっぱり公募して、関心の深い方いっぱいおりますから公募して、そして有識者会議といっしょになってやっぱりいろんな反対、賛成の意見を戦わせて、そして最終的に結論を出すという、これでないとは私は異常であると思います。計画も異常、検討会も異常というふうに思います。

最後に、せっかくですので、大変な悲痛な決意をなされた、水没されますよね、もし小石原川ダムができれば。そういう方たちには、もしこれが中止ということになると、大変割り切れない、大変な決意をされたんでしょうけれども。しかし、そこは私は全体のそういう視点に立って理解をしていただきたいと、そういうふうに思います。

もっと言いたいことがいっぱいあったんですけども、時間制限ということでございますので、端折って大変分かりにくかったと思いますけれども、以上です。

## ○住民（2番）

みなさん、こんにちは。私はこのダムの建設にあたる上秋月のお世話をしております振興会長の●●です。今日は今説明がありましたけれども、私から4点ほど意見を言わせて頂きたいと考えます。

このダム建設の見直しが出て参りましてもう3年ほどになるわけでございますけれども。この小石原川ダムと我々関係のある地域整備計画は邁進するものだと思っております。切り離して事業を進むことはできない。地域振興策につきましてはですね、我々はどれだけの時間と努力をしたかわかってもらいたいなというふうに思っているところであります。

それから2番目。今お話がありましたように水没者のみなさん方がですね。どんな思いで移転をされたのか、あとで話もあると思いますけれども。我が町はですね。これらに対して人口減少、それに続いて過疎化がどんどん進んできております。ダム建設は進まず、整備事業もされず、町のにぎわい等もなくなりつつあります。まさに限界集落。ボロボロの町になっていく。こういう手伝いをしたのかと不安要素がいっぱいあります。

3番目に、特に今年の7月に起きました北部九州豪雨災害を考えると既に既定の江川ダムはですね、利水ダムであります。いつも満水状態を保っておるわけでございます、梅雨時期でもですね。満水のためどうしても放流しなければならない。直下流の地点では災害がでているわけでございます。

こういう中で、我々、直下流の住民と致しましては、願いは一つであります。一刻も早くですね。洪水調整ができるこの小石原川ダムの建設を着工していただきまして、ポケットを設置して頂きまして、安心して暮らせる町となるよう、強く願うところであります。

最後になりますけれども、上秋月の関係住民としては、このダム建設に対する地域の長年の苦勞と協力を考えるに至り、必ずつくってもらいたい。代替案等は受け入れがたい。これがこの町としての総合的意見でございます。

今後ともよろしくお願ひ申し上げ、意見と致します。

### ○住民（3番）

どうも、朝倉市の●●です。意見述べたく、いやになっちゃいました。なぜかと言うと、住民の意見を聞くと言いながら、5分間、5分間で何でしゃべれますか。これちょっと、水資源、反省してもらわないといけないと思いますよ。少なくとも、10分か20分ぐらいじゃないと、基本的なことしゃべられないでしょう。しかも、これは、会議後、返してくれと。なんですか、秘密文章じゃないでしょう。皆さんに渡すんですよ、これを。そして、皆さん、検討した結果をですね、十分吟味してもらおうということが、重要になってきていると思うんですよ。そういう面言えば、どこもね、もう問題提起するのが、いやになっちゃう気になってます。

この検討会議も、考えてみますとね、その、建設推進の市町村長ですよ。これ、公平じゃないですよ。少なくとも、有識者や、やっぱり、住民の、地域の人達に、参加してもらって、検討するというような、検討会じゃないのですか。推進する側ですから、市町村長もですね。

僕も朝倉出身ですけど、朝倉は水余りなんですよ、実は。いらないですね、これ、数字ありますけど。筑後、県南の資料があります、23年度の。これがですね、例えば久留米なんか56%しか利用していないんですよ、44%余っている、使っていないんですよ。これは、小石原川ダムに匹敵するものなんですよ。こういうのも、各市町村長が、将来を展望して、吟味してね、計画してるんじゃないんですよ。それから、水利権や、県南企業団から頼まれてるというか、ぜひ入ってくれてと言われて、入ったといわれているんですよ、聞いてみると。そういう形で、このダム検証を進めようとしていることについて、非常に、不満持ってますし、危機感を感じてるところであります。

今の方から言われましたので、申し上げませんが、小石原川ダムの建設については、2,360億って言われてる訳ですね。しかし、完成時の建設総額は、当初予算の40%を上回るんだ、というのが、言われている現実になっています。そういう面では、この建設は、3,300億に増やされる、試算されているわけですよ。皆さん、税金です、これ我々の。だから、関係者が来だけじゃなくて、住民参加でこれは、検討してですね、作っていくとしないと、今の財政危機の中で、大変なことです。率直に申し上げます。

朝倉なんか、小石原川ダムができますと、本当70%水余りなんです。現状では、余っているんです。だから、そういう長期展望にたった試算をしないで、建設をしていると、いうことですね。だから、それ以上に、危機感を持っているわけですね、だから、こういうの皆さんに、見せたくない気持ちわかりますけど。

ホームページにありますよと、マスコミにも話してただけど、ホームページ、うちにないですもんね、ないですよっていうのは、圧倒的ですよ、高齢者の人達もほとんど見れないわけね。これ全部ね、渡して、今日なんか、だから、ここに来て、目を通すという状況ですよ、意見を述べられるはずがない。それで、住民の意見を聞いたという、あなた達がね、発表するんだったら、それは、おかしいですよ。告示されてないでしょ。あげてる人だって、関係するところに、記者

発表がいつてるだけです。新聞社も聞いてないというか、一社だけ昨日聞いた。だから、新聞記者もほとんど来ていない。僕はですね、聞いていない。こういうですね、閉鎖的なやり方で、その、皆さんの意見を、対話を、期待する、そのものがですね、私は、問題だと思っています。

もう、5分になりますから、ですから、私達は、水環境問題研究会っていう、専門会を作っています。そして、色々我々研究してるんですけども、率直に申し上げまして、小石原川ダムの建設は、必要ない、県南の水がこれだけ余っている、65%余っているんですよ、知ってるでしょ、水系の皆さん。そういうなかでね、今、人口どんどん減ってきてるわけですから。水は、減るんですよ、要は。そのことを踏まえて、やってもらいたい。で、私は、まあ、はっきり言わせれば、ダム建設は、税金の無駄使いであると、小石原川ダムの建設は、すべきでないという結論に、我々は、達していますので、建設断念されるよう要請して、長い時間、申し訳ありませんでしたけど、意見に代えさして頂きたいと思います。

#### ○住民（4番）

わたくし小石原建設に伴います木和田導水の問題について、特にこの問題は高木地区が関係ございますのでそういったことから地域を代表致しましてご意見を述べさせていただきます。まず、あの水資源というものはわたしは部落にとりましては本当に貴重な資源であります。特に財産というふうに考えております。

平成4年に筑後川総合開発の一環と致しましてこの木和田導水路の建設の要請が行政の方から地元を下ろさせてきたわけでございます。そこで私たち高木地区と致しましてもいろいろ協力いたしまして、佐田川、特に佐田川沿川の住民の生活、導水としての・・・それが一番の基本ではないかという結果で、当初は反対意見を表明してきたわけでございます。特に小石原川ダムというものは、流量が、水系が違いますので流路変更はまかりならんだろうという状況でございました。

その後、数度となく関係機関との協議を重ねまして最終的に住民大会を致しましてやはり国土保全あるいは人々の生活の安定、産業の発展、併せて高木地区の振興を願いながら同意を致しました。その後、高木地区にとりましても取水の対策委員会や振興計画検討委員会などを設置を致しまして数百回に及ぶ検討協議を重ねて今日に至っているところでございます。

特に河川の根源と言うのは山林であります。99%山林でございます私たちの地域にとりましては、現在の林業不振というのは最大の課題でございます。特に住民の高齢化やあるいは後継者の不足そういった事を抱えながら私たちは山と向き合っ細々ながら生活を送っているわけでございます。特に佐田川の水を守ることはいかに山林を大切に管理をし保全をしていくことが最重要課題であることはわたくしたちは常に肝に銘じていかなければならないことではないでしょうか。

過去非公式の期間を含みますと約30年、小石ダム、木和田導水事業にどれだけ私たちは翻弄されて来たことか。簡単に賛成だ、あるいは反対かと言う前に佐田川の水の恩恵を受けながらそしてそれを愛して育った私たちは先人からの尊い遺産を後世にいかに有効に活用して、役立てていくべきか。そのために、木和田導水の有効活用というものを信じて、決断をいたしました我々の住民の切なる心情をご理解頂きたい。そして一刻も早く完成いただきますよう改めて強くお願いをいたす次第でございます。

簡単でございますが、いろいろとまた再三にわたる問題がございますけれども、私たちのこれまでの状況できました小石原川ダムに関わります木和田導水問題の一部の概略のご説明を終わらせていただきまして、みなさんのご意見を拝聴してまいりたいと思っております。終わります。

#### ○住民（5番）

私は小石原川ダムの水没者の一員でございます。今日はこういったダムへ意見を述べさせて頂く機会を与えて頂きまして、本当にありがとうございます。

私どもの所に、三十数年前にですね、突然ダムの調査依頼がありました。その間、私どもは非常に、反対等の抵抗もありましたけれども、いろんな事を聞きながら、苦渋の選択をしてダムの調査を受け入れた訳でございますけれども。その間、三十有余年、非常に紆余曲折ございました。ダムの用途の変更だとか、環境アセスの法制化だとかいうことでですね、相当なロス時間がございましたけれども、ようやく補償ということになりまして、私どもも肩の荷を下ろしたところでございますけれども、突然、政権が変わりまして、ダムの中止だと。再検証するというようなことになりまして、三年が経っておるわけでございますけれども、本当にあの私どもはですね、皆さん方が端から見るような訳にはまいりません。その当事者としては苦渋の選択、そして生活の制約を受けて、三十有余年過ごしてきた訳でございますけれども。突然こういったことになって、未だ、生活再建が完全に整っておりません。これは、いずれにしましても、ダムを造るということにならなければ、この問題は解決しないということでございます。

皆さん方、いろんな意見もあると思います。確かに反対もございましょう。さっき言った話を聞きますと、水は今、余っているということでございます。確かに、現在はそうでございましょう。しかし、未来永劫、本当に余るのかどうか。今の異常気象のなかでですね、本当にそれが保証できるのかどうか。私は本当に疑問だと思います。この前2、3日前ですけれども、甘木の牛木橋のところで、年寄りの方と話をしたんですけれども、「私たちはこの土地に八十有余年住んでおりますけれども、避難勧告が出たのは初めてですばい。今の気象はどうなっちゃうとですかな。」というような年寄りがおられました。確かにあそこに行ってみますと、あと20cmくらいで住宅の方に流れ込むような状況でございましたけれども。幸いにしてですね、大したあれはなかったようでございます。

いろんな意見があると思いますけれども、私どもは、やっぱりこのダムを造ってもらわなければ、私どもは今まで、明治以降私どもの地域は400年以上の歴史があるようでございます。そういったこと、伝統、文化、いろんなものを捨てて、こうして移転をしまいでございますけれども、これが止まってしまうと、私どもは何のために、生まれ育った土地を捨ててきたのか、本当に悲しい思いでいっぱいでございます。

皆さん方もいろんな考え方あると思いますけれども、せっかくこの走りかけたダムでございます。そしてまた代替案もいろいろ聞きました。江川ダムの掘削だとか、かさ上げだとかいうのはそんなに、犠牲はないと思いますけれども。小石原川の両岸のかさ上げだとか、ため池をつくるとかいうことになりまして、また、膨大な経費とそして多くの時間がかかる訳でございます。本当に20年、30年、今の気象状況で、無くていいものかどうか。私は非常に疑問でございます。

どうかひとつ、私は本来であれば、ダムを造ってくださいという立場ではございません。本来であれば、反対の立場でございますけれども、もう私もはすでに移転をしてきております。そういうことも、すごく、何が何でも早急にこのダムを造ってほしい。以上で終わります。

#### ○住民（6番）

みなさんこんにちは、水没者の一員であります●●でございます。

今日こうして意見を聞く会を開かれたことを心から感謝申し上げたいと思います。検討委員会に2回ほど傍聴に行きました。その後2回、後で4回あっているようなんですが、その4回の中でこの報告書の中にも住民の意見というのは全くございません。実はあるのかなというふうに思ったら今日あるんだということで、私も発表者として申し込みをいたしました。

そして意見を聞くときに、立場、見方が変われば色々な意見があるんだなというのを今日実感致しました。私は水没者の一員で移転をしてきました。30数年前、ダム建設の話があり、さっき会長が言いましたように30数年間水没対策協議会を設立して会合を開いて参りました。その中でも小石原川ダム建設反対という方々もいらっしゃいました。

しかし、国、あるいは当時の建設省の方からどうしても水が必要なんだということで話があり、我々もいたしかたなく賛成をしたところでございます。そして今日を迎えました。水没者の一人として生活再建中でございます。ところが3年前、前原大臣が急に中止ということを行い、2年前、馬淵大臣がゴーのサインを出した。こういうふうに政治家、あるいは国、県、その思惑で私達は右往左往しなければならない時代が続きました。今でもそうです。

このダムができなければ私達は生活再建が中途半端になってしまいます。水特事業が行われないうふうになると地域、先程振興会長が言いましたように、上秋月地域あるいは水没者、大変困ったこととなります。この補償を誰がしてくれるのでしょうか。ぜひ私は解決方法として小石原川ダムを建設する以外にない。

そしてこの報告書の中にも16項目にわたって検討された報告書ができあがっております。この報告書の中にも公共団体でどこも反対しているところはありません。傍聴に行っても、特に久留米も県南地区の方は私達の町の上水道が25%しかできていない。ぜひつくって頂きたいという話を聞いております。県南地区の水道企業団にも行って企業長の話を聞いてまいりましたけれども、「ぜひ地元の方々も協力をお願いしたい。大変ご迷惑をかけるけれどもぜひ建設できるようにお願いしたい。」ということをおっしゃっていただきました。

そのことを踏まえて私達は先祖の土地を捨てて新しいところにきましたけれども、年配の方達は、「江川に帰りたい。」「草ぼうぼうになっているけどもまだ土地があるから帰りたい。」と切々と訴えられる方もおります。こういう水没者の気持ちを十分踏まえていただいて建設に進むように努力をしていただきたいというふうに思います。以上意見を述べさせていただきました。